

【治安対策】

近年、特別区では、危険ドラッグに起因する犯罪や、高齢者を狙った犯罪など、区民に不安を与える犯罪が多発しています。こうした不安を区民に感じさせる特別区の課題を説明した上で、区民が安心して暮らせる地域社会を実現するため、特別区の職員としてどのように取り組むべきか、あなたの考えを論じなさい。

【答案例】

近年、わが国では、犯罪認知件数そのものは減少傾向にある。しかしながら、特別区においては、危険ドラッグに起因する犯罪や、高齢者を狙った特殊詐欺事件などが多発しており、区民の安心・安全を求める声はいまだ根強い。実際、東京都が実施する「都民生活に関する世論調査」においても、例年、要望事項の上位に「治安対策」があがっている。

こうした不安を区民に感じさせる特別区の課題としては、「都市環境の問題」と「地域コミュニティの希薄化」の二つが挙げられる。まず、都市環境についてであるが、特別区には、込み入った住宅街や、空き屋化した雑居ビルなどが数多く存在しており、こうした場所は、人々の死角となり、犯罪の温床となり易いといえる。また、地域コミュニティについては、特別区のような大都市では、人々の転出入が激しく、地域において他者との持続的な関わりをもつことが難しい。そのため、地域コミュニティが希薄化し、犯罪者が地域社会に入り込んでいても、その発見や通報が遅れてしまう傾向がある。これらの事情から、特別区は、犯罪が発生しやすい状況が生まれているのである。

では、区民が安心して暮らせる地域社会を実現するため、特別区の職員としてどのように取り組むべきか。上述の課題を踏まえ、私は「犯罪に強い都市環境の整備」と「地域コミュニティの強化」が重要であると考え。以下、この二点について論述する。

第一に、「犯罪に強い都市環境の整備」について述べる。都市環境の改善に取り組むにあたっては、行政が、区民が不安を抱いている場所を把握することが必要である。そのため、特別区の職員は、SNS等を活用し、危険区域について区民と意見交換を行っていくべきである。そして、危険と判断された場所には、見通しをよくするため、防犯ミラーや街灯を設置し、また、より危険度の高い場所には、防犯カメラの設置を検討していくべきである。例えば、江戸川区では、地域住民と協働して「安心して歩ける道づくり」に取り組んでいる。これは、区民が日常的に利用する道路を対象に、道路上の死角除去や、街路灯の照